

まちづくり懇談会議事録【公開用】

日 時：令和元年 10 月 21 日（月）18 時 23 分～20 時 08 分

場 所：桜山会館

出席者：17 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 今年度のまちの動き（資料①）

※質疑応答

4. これからのまちづくり（資料②）

5. 懇談

6. その他

(1) 出前型政策・施策説明会「栗山町のまちづくり」について（資料③）

※質疑応答

7. 閉会

《質疑応答》

【栗山赤十字病院について】

町長：

日赤病院の問題が重要だと思っている。整備費用がかかるため、他の町と連携して総合病院を作ることが効率的には一番良いが、なかなか足並みが揃わない。皆さんからいろいろな意見をいただいて、最終判断をしたいと思っている。

福祉総括：

日赤病院については、平成 22 年から議論を始めている。耐震問題もあり、本年度中に栗山赤十字病院改築等検討委員会で一定の方向性を示すことにしている。方向付けをした後も、さまざまな調整に約 7 年かかると思うが、スピード感をもつと同時に、慎重に進めていきたい。近隣の受診状況としては、南幌町民は 60%、長沼町民は 43%が札幌圏に行っている。国と道が示している医療圏では、札幌市は 3 次医療圏になっているが、南空知は札幌市に近いので、2 次医療の段階から札幌方面を向いている。由仁町や夕張市は病院を診療所にダウンサイジングして運営している。日赤病院は現在 136 床あり、100 人前後が入院している。その中で、7～8 割が町民。外来でも多くの町民が日赤病院を利用している。広域で拠点病院を、という話はなかなか難しいが、情報交換は必要だと思っている。ある程度方向付けができれば、再度町民の皆さんにご意見を賜りたい。

町長：

現在の日赤病院のベッド数 136 床をそのまま建て替えるのは難しいと思う。日赤本部としては、町の財政支援があればそのまま栗山町で維持していきたいという考え方を

持っているが、整備費用に関しては負担の考えはない様子。日赤病院側は、今後高齢化が進み、入院患者の増加が見込まれることから、現在の病床数を維持すべきという考えを持っている。しかし、日赤本部はダウンサイジングすべきという考えで、考え方の相違があり、加えて町の財政的な問題もある。医療水準を維持できるような議論をし、2次医療圏の岩見沢市や3次医療圏の札幌市との連携も必要になってくる。今後建て替えても、町の財政を圧迫する規模の病院とまではいかないと思う。診療科目の数についても、今の科目が必要かどうかという問題もある。日赤病院については、またあらためて皆さんのご意見をお聞きする場を持つと思う。

福祉総括：

診療科目は現在 11 科目ある。耳鼻科、皮膚科、泌尿器科、眼科は週 1 回のみ。透析については日赤病院の主たるもの。現在の科目全てが必要か、または週 1 回の診療科の診察回数を増やすべきなのか、2 次医療圏、3 次医療圏とどう連携していくかなど、協議が必要。

町長：

小さな子どもは、風邪をひいたら耳鼻科の診察が必要になることが多く、現在開業している小児科と、連携できる耳鼻科として、週 1 回ではなくセットで同じ診療日にしてほしいなど、要望も出ている。

町民：

広域病院の考え方もあるが、ある程度日赤病院の縮小も必要ではないか。広域で病院を建てるのは無理だと思う。他の町との足並みが揃っておらず、広域病院を作るために栗山町にお金を出す市や町はないと思う。栗山町に病院は必要なので、ある程度縮小した病院を作ることが賢明ではないか。財政破綻してまで病院を作る必要はないと思うが、ある程度縮小しながらやるしかないのではないかなと思う。

町長：

新しい病院を建てるには、5～6 年前の試算で 70 億円から 80 億円かかると言われており、再度積算しなおすともう少しかかるのではないかなと思っている。病院建設に対して国の補助などもあるが、おそらく 3 割は持ち出しになると思う。単純計算で 20 億ぐらいの支出になり、非常に厳しい。病院の問題と並行して町の財政計画も検討し、町の財政が成り立つかどうかの試算もきちんと行っていかなければならない。

町民：

本当は広域でできれば良いのだろうが、難しいだろう。岩見沢市と上手に連携していきながら進めていくしかないのではないかなと思う。

町長：

病院については、各町の考えがあるので、広域で病院を作るのはとても難しい。

町民：

難しい課題ばかりだ。

【北海道介護福祉学校について】

町長：

介護福祉学校は現在の生徒数が 20 人。

町民：

介護福祉学校は、あるに越したことはないが、町の負担を考えると、いろいろ考えなければいけないと思う。

町長：

全国的に介護人材の不足が見込まれており、栗山町内でも 5 年後には 150～200 人の人材不足が見込まれている。その中で、介護福祉学校が必要になってくる一面もあるが、卒業生の中で栗山町に残るのは 1 割程度。国からは、介護福祉学校の卒業生の 9 割は地元に戻るため、他の町に対する貢献度はあるが、なぜ栗山町が単独で多額の資金を投入しているのか、と言われる。国からは北海道全体としてこの問題を考えたかどうか、と言ってもらい、道に投げかけているが、リーダーシップをとって介護の問題に立ち向かっていくような気概は見えない。

町民：

近隣の大学に介護を学べるところはあるのか。

教育長：

近隣の大学にも介護学科はあるが、あまり人気がない。少子化の影響で社会全体として人手不足な中、企業は高校生を就職に引っ張っていくような動きがある。介護職に対する待遇面での改善点もあり、国がきちんと対応していかないと大変だと思う。根本的に対策をしていかないと難しい問題。数年後、私たちが介護のお世話になるときに、きちんとした介護士がいるのだろうかという心配もある。介護士不足に対し、国は外国人材で対策を、と考えているが、きちんとした知識をもった介護士が中心となるシステムでないと不安も残る。今後、在宅での介護も増加すると予想されるため、そういったところにノウハウを伝えられるのも介護福祉学校の強み。ただ、財政を圧迫している状態を黙ってみているわけにはいかないと、改善経営をしていかなければならない。

町長：

改善計画を達成できたとしても、町からの持ち出しは必要。将来的には、専門職短期大学に昇格させて、介護学科を持つ大学に介護福祉学校を経営してもらうことが理想的ではある。

【栗山高等学校について】

町長：

栗山高校も大変な状況になっている。

教育長：

今年は33人の入学生がいて、その中で栗山中学校からの進学は19人。栗山中学校の卒業生の多くは岩見沢方面に進学していて、札幌市の私立・公立に進学する子どももいる。全国的な少子化の影響に加え、学区制がなくなったこともあり、岩見沢市などの高校にも入りやすくなった。現在、栗山高校の子どもたちも頑張っており、卒業生が1人、国公立大学に合格した。栗山高校にも学力が高い生徒もいるが、一方で低い生徒もいて、レベルに差があるのが実情。栗山中学校の生徒・保護者全員に、高校選びについてアンケートを行ったが、学力や学校のイメージ、部活動が選ぶ理由になるとのこと。また、栗山高校についてのアンケートでは、雰囲気やイメージが良くないという結果があった。栗山高校の魅力を高めるために、栗山高等学校の魅力づくり委員会20人で検討を進めている。現在は普通科2クラスだが、普通科のみで良いのかという議論もしている。三笠高校は専門科をつくり、非常に人気が高い。栗山高校も魅力ある学校づくりをしていかなければならず、町の特色ある学校にしていくなど、いろいろ考えなければならない。しかし、一番大事なのは、生徒を集めなければならないこと。来年の募集については2間口を維持できたため、41人以上の入学者を確保したい。より良いご提案があれば、ぜひ教えていただきたい。

町民：

栗山から町外へ高校進学している子は、その後、大学へ進学する子が多いのか。

教育長：

大学進学を希望する子が多いが、岩見沢農業高校など、職業に特化した学校に進学している子は、高校での学びを生かして就職している子も多い。岩見沢東高校、岩見沢西高校は進学する子がほとんど。岩見沢緑陵高校は、大きく分けて学科が3つあり、普通科は進学、昔の商業科にあたる学科は就職、新しくできたスポーツ科はまだ進路状況が見えていない状況。

町民：

足寄町かどこかで、公的な塾をつくり、進学者が多くなったというニュースを見たことがある。

教育次長：

近隣では、夕張市で公設塾をつくって活動している。実際にどういった状況なのか夕張市に視察に行き、栗山高校の魅力づくり委員会の中に情報提供して提案し、議論していきたい。

町長：

高校の魅力を作っていくことと並行して、若者定住の人集めにつながるような、町自体の魅力アップも必要。高校に関して、一度1間口になってしまったら、そのまま転げ

落ちてすぐに廃校になることが予想される。南幌町が間口減少の2年後に募集停止となったこともあり、この地域で高校がなくなってしまうのは何としても防ぎたいところ。

町民：

栗山高校卒業生の就職率と進学率はどの程度なのか。

教育次長：

栗山高校の卒業生 66 人のうち、進学者数が 43 人。そのうち専門学校への進学が 28 人。純粋な大学、短期大学や看護学校も含めると 15 人。就職は 18 人、うち 1 人は公務員になっている。

町民：

建物の話がほとんどだが、栗山高校や介護福祉学校の耐震強度や、今後の建て替えはどのようにイメージしているのか。問題はないのか。そういう点も含めてあまりに財政を圧迫するのであれば、やめるものはやめる、という判断をすべきではないかと思う。

町長：

40 年後には町の人口は約半分になる。その中で、今ある公共施設を全て維持できるかといえば不可能に近い。一つずつ慎重に考えて、栗山町のまちづくりに将来必要なものかどうかを検討していく必要がある。今回、栗山町スキー場に関して苦渋の決断をしたが、これから先、人口減少していく中で、全ての公共施設に関して将来を見据えた判断が必要になってくる。今、介護福祉学校の建て替えも含め、いろいろな公共施設について修繕費用が多くかかる時期に来ている。公共施設総合管理計画を作成中で、いろいろな施設の修繕に関して、財政計画に盛り込んで組み立てていかなければならない。本来は、減価償却をして備えていかなければならないが、公の施設は減価償却の考え方がない状況で、そこに代わる財政計画を立ててやっていく仕組み。改修や建て替えの時期を見据えて、積み立てなど、減価償却していくのが一般的なやり方だが、公の施設の場合はそういったことがない。

町民：

例えば、優先事項を考えると、下水道の配管など生活に直結するものが最優先になるのではないかと。栗山高校の建て替えは生活に直結せず、町内全体として考えた中で、優先すべきところではないと思う。財源が限られている中で、水道や生活道路を優先すべき。学校について興味がないわけではないが、生活に直結するところを優先してほしい。

町長：

その時々で選択と決断をしていかなければならない。上下水道などの生活インフラは最優先にしていく。その中でその他の政策をどうするか選んでいきたい。近隣と栗山町の人口動態を継続して調べており、これまでは推計どおりの人口推移になっていたところが、今年4月から9月までの人口は10人ぐらいいく減っていない。例年であれば100

人ぐらい減っていたところで、近隣もそのくらい減少している。たまたまかもしれず、年間を通して見る必要はあるが、これまで行ってきた移住政策や子育て支援の効果が少しずつ出てきているように見える。ご意見のとおり、しっかり取捨選択をし、限られた財源の中でどこに投資していくか、住民の皆さんのご意見を聞きながら判断していきたい。

【桜山自然の家に関して】

町民：

桜山自然の家の隣接用地払い下げについて話が進んでおらず、そのままの状態になっている。担当者の移動もあり引き継ぎができていないのかもしれないが、早急に払い下げしてほしい。

町長：

早急に確認し、すぐに連絡する。

【栗山駅周辺・商店街の活性化について】

町民：

菊水通りとはどこのあたりのことか。

町長：

消防署から道道に抜けていく道路で、道幅が狭いので拡幅工事をしている。越路仏壇屋の横の道路も1台しか通れず狭いので、こちらも工事している。板垣医院の横の道路も同様に工事する。MARON プラザ（仮称）について、観光客や町の方が集まれるような拠点施設を作りたいということで、現在役場で唯一の攻めた事業と言える。お金もかかる話であり、失敗できないと思っているが、人を多く集められるようにしたい。新しく2人の地域おこし協力隊を採用し、その施設の運営に携わってもらうため、2週間の町内での研修を終え、現在、鎌倉市で1年間の研修を受けている。多くを学び栗山町に帰ってきて、ノウハウを生かしてもらいたい。